

# 園長だより

第六号 十二月  
竹鼻保育園  
園長 川出昭順

## 《わが子の発達を急ぐ親心が 子どもも親も不幸にする面がある》

「今、保護者に届けたいメッセージ」という連載が「保育通信」という月刊誌あり、その中の京都大学の鯨くじら岡おかた峻かという幼児教育の先生の文です。

よその子との比較によって、それに一喜一憂する近年のお母さん方の姿は、一昔前には見られないうほど、熱のこもったものになってきています。どうすれば早く言葉を話せるようになるのか、どうすれば知的な能力を早く身につけさせられるのかと考えるようになって、様々な情報を追い求め、早い発達を期待する気持ちが大きくふくらんで、子どもの育ちを後ろから押すかたちの子育てに傾くようになってきたのです。

このお母さんの期待と不安は、さらに「もう3歳では遅い！」と



お芋掘りです。運転手の岩田巖さんのご好意で実現しました。『さつまいもはどこかな〜? たくさんとれたよ』もも3組の子ども達です。

いう幼児教育産業の脅し文句にあおられ、そして「あそこでも〇〇幼児塾に行かせている」「あそここの園では〇〇を特別に訓練してくれるそうだ」という情報に乗せられて、いつのまにか幼児教育教材を買い入れ、あれをさせる、これをさせるといふように、発達を急がせる動きに引き寄せられてしまうようになってしまったのでしよう。

(中略)

今お母さん方の関心を強く惹きつけているのは、漢字を書く力を早く身につけるためなどの塾通いの問題でしょう。「上の子が小学校に上がる時、わが子は自分の名前しか書けなかったのに、幼児塾に通っていたよその子は入学の時点で40個も書けるようになっていた。私は上の子の教育に失敗したのだ。だから下の子には早くから幼児塾に通わせて、上の子の失敗を繰り返さないようにしよう」「こんな考えになるお母さんが今とても多いように思います。しかし、本当にそれは失敗だったのでしょうか。

お母さんの関心は、入学の時点での差にあります。その時点でA君が書けるA君の力と4個しか書けないわが子の力を比較して、「失敗した、早くからさせればよかった」となるのですが、この差はほとんどの場合、2年しないうちに埋まってしまうものです。もしも埋まらずに、その差がずっと持ち越されるならば、私も早期教育を推奨します。しかし、実際には、ほとんどの場合、8歳までに追いついてしまうのです。

だとすると、A君のお母さんは2年間、「わが子はよその子よりもよくできる」と自慢する気持ちになれただけです。そしてA君はB君よりも塾通いした分、思う存分に遊べなかつたことになり、Bくんは塾通いをしなかつた分、A君よりもいっぱい遊ぶことができ、楽しい経験をたくさん集めたこととなります。ただそれだけのことです。こうしてみると、これまでの発達の見方は、

子どもの育ちを急がせる結果を生み、子どもをも苦しめ、お母さんをも苦しめる意味合いを持っていたということになるのではないのでしょうか。ここから、発達の見方を見直す必要が見えてきます。

**園長より** 皆さんはどう読みましたか。ただ塾通いをしているお子さんがありますが、それを否定するものではありません。お子さんが楽しんで行かれれば素晴らしいことだと思います。

## 仏教のお話

今回の問題になってきたことは、よその子と自分の子を比較して負けないように頑張ることから起こってくる弊害です。人間誰でも常に何かと比較して一喜一憂する心を持っています。一般的には比較の心も大切である、この心によって人間の向上心が育てられ、人類の進歩がある。そのように前向きに受け止めていけばいいのだが、この場合は比較することによってお互いを傷つけていくことになり、問題が多いと考えます。

仏教の教えに照らしてみると、比較そのものを否定していきま  
す。どうしてかというに、比較するということは、優劣・上下・  
美醜・賢愚などを作り上げているために、そこに差別の心を生み  
出しているからです。比較して、優を選び、劣を廃する。上下  
・美醜・賢愚も同じです。優・上・美・賢を選び、劣・下・醜・  
愚を排除することになります。前者を求め、後者になることを恐  
れ、もし後者のレッテルを貼られた時、劣等感に苦しみ生じてい  
く力さえなくしてしまいます。反対に前者であると自惚れて、  
人の苦しみ悲しみが見えなくなり傲慢な人間になっていきま  
す。

比較する心を無くすことはできません。しかし、比較する心が  
このような重大な問題を孕んでいることに目が向いたなら、優  
・上・美・賢が絶対に素晴らしいことであり、これらを求め続け  
ることが人生の幸せとは考えなくなるのではないのでしょうか。仏  
教の教えはこれらをいかにして超えていくことが出来るのか、そ  
して比較の心から解放されたところに平等の世界があり、本当の  
幸せがあることを教えます。

劣等感に苦しんでいる人がたくさんいます。自分みたいなもの  
は生きる価値がないと自分で決めつけ、心閉ざしてしまい、悲し  
い人生をおくっています。仏さまの眼から見たら、優劣・上下・  
美醜・賢愚と比較の心で勝手に二分化して苦しんでいるが、そん  
なことは全くないよ。みんな平等だよ。そこには優劣・上下・美  
醜・賢愚という価値観は人間が勝手にいうだけのことで、生きる  
ことがそれらによって左右されることはないよ、と。

でも、世の中にはお金持ちで、頭がよく、幸せな家族に囲まれ  
て・・そんな人生でありたい。すべての人がそう願っています。  
日本という国はそれを目指して、世界有数の豊かな国になりました。  
た。お金が手にはいると、生活は豊かになって、発展途上国の人  
々は日本のようになりたいと羨望をいだきます。ところがその日  
本人は羨やまれているのですが、どうですか、みなさん、幸せで  
すか？ 満足ですか？ 足りないことばかりでないですか。何  
かおかしいでしょうか。ここを仏教は比較の心に大きな問題がある  
というわけです。いかがでしょうか。

みなさんの感想を聞きたいです。声かけて下さい。